

りつめい

題字・末川 博名誉総長

Ritsumeikan University
Alumni Association
立命館大学校友会報

RITS
立命館大学

No. **220**
APRIL 2005

特集1

白川静先生を語る

特集2

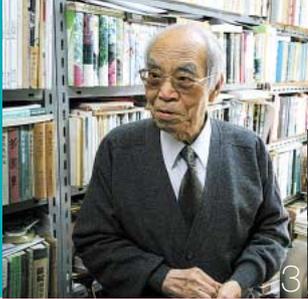
立命館の知的国際貢献
人材育成を中心として

Brilliance
輝くひと
53

世界の歌を運び来る、自由な風になって

歌手 松田 美緒さん('02産社)





特集1

白川静先生を語る

西川富雄名誉教授・竹内涼子さん
住岡幹雄さん・奈佐利夫さん

3

輝くひと

松田美緒さん

1

RITSUMEI INTERVIEW

プロゴルファー

古市忠夫さん

8

恩師の窓

石見利勝 政策科学部元教授

安藤次男 国際関係学部教授

11

キーワードから見る現代

笑い

鳶野克己 文学部教授

12

立命館あの頃

1990年～1995年頃 その2

14



14

特集2

立命館の 知的国際貢献

人材育成を中心として

大島英穂 国際協力事業センター 部長

20

校友会ネットワーク

16

こんな会あります

17

自由席

18

校友個人情報取り扱い方針

19

学術系・学芸系クラブの活躍

22

Rits One ときの人

23

水谷 敦さん

キャンパストピックス

24

学生のスポーツ&イベント

26

定年退職教職員紹介

INFORMATION

28



26

世界の歌を運び来る、自由な風になって



表紙の人

歌手
松田美緒さん
(02産社)

リオ・デ・ジャネイロでのレコーディングを終えて一時帰国、京都で新年を迎えた美緒さん。嵯峨野の竹林を揺らす風の声を聞くと、自然の懐に抱かれて遊んだ幼い日、大地との感性の交信が祈りにも似たメロディーになって湧き上がってきたことを思い出すという。「私は原初から歌と共にあります。歌がなければ生きられない。」

それ以来、いつでもどこでも歌ってきた。ヨーロッパ系の数ヶ国語を操り、自由に国境を越えて、心がびったりはまる場所を探しに出かけるコスモポリタン。カナダのプリティッシュ・コロンビア大学(UBC)留学中には、先住民と太鼓を叩いて歌い踊り、ポルトガルはリスボンの下町で歌い継がれてきた歌謡「ファド(Fado)」を知ってのめりこむと、現地で生活し、息遣いの一つひとつまでを体得した。同じポルトガル語の歌でも、ブラジルのサンバは底抜けに明るい。そのエネルギーにも強く惹かれている。

美緒さんは、世界の音楽を日本に運んでくる船、あるいは歌を乗せて天空を吹き渡る風なのかもしれない。今は、ポルトガルやブラジルを拠点に環大西洋の国々を旅し、土地土地の音楽を吸収しては、日本人松田美緒ならではのエッセンスを織り交ぜて自分の歌として咀嚼しているところだ。「私の歌を聴いてくださる方を、その歌の故郷まで連れていってあげたい。私が身体に染み付けてきた音楽を、現地の風景や人々の暮らしがぶりまで思い浮かべていただけるように歌い上げたいと思っています。世界と日本をつなぐ歌手として。」

ファーストアルバム"Atlantica" (ビクターエンタテインメント)を、近々リリースする。さあ、私たちも、心を旅出たせよう。美緒さんの歌に託して。

<http://www.miomatsuda.com/>

(写真・小幡豊 文・寺田直子)

白川 静 先生を

「かつて東アジアは、精神的統一性をもった平和で輝かしい世界でありました。それを支えていたものが、漢字であります。先の戦争によって瓦解してしまった漢字文化を回復させ、本来の東洋的な精神世界を取り戻すことを、私は希求しています。これからも、漢字研究を通じて、できる限りの努力を続けていきたいと考えております。」
(白川名誉教授、文化勲章受章記者会見における談話より。)



語る

特集
1

Special 1

本学名誉教授 白川静先生は、漢字研究という方法を通じて、日本や中国の古代文化、ひいては東アジア漢字文化圏の精神世界の研究に、長年にわたり精魂を傾けてこられた。先生の文化勲章ご受章をお祝いして、ゆかりの方々に「知の巨人」の素顔をあたたかく照らし出す文章をお寄せいただいた。

わが学問の師・白川先生

一哲学生と白川先生

戦後 それまでの貧弱な自分を清算したくて再出発した私の生涯は、こんにちに至るまで、立命館とともにあります。それを、わたしは、有り難いことと思っています。凡庸な私の人生は、半世紀あまり、多くの人から多大の学恩を受けてきたのであります。近頃、絶えず頭を去来するのは、二人の先生です。ひとり、いまは故人ですが、いうまでもなく哲学科の恩師・山元一郎先生ですが、白川静先生であります。

いまは他大学のキャンパスとなっていますが、かつての広小路学舎にあって、お二人は、三六五日、研究



大学研究室での白川先生（1970年頃）

室につめて研究の日々を過ごすという人でありました。倦むことを知らない、その学究の姿に、凡庸のわたしは、敬愛の念を常に抱いていたものです。哲学生として、山元先生から多大の教えを受けたことはいうまでもありませんが、常日頃、学問のうえでは非常に遠くかけ離れていたにもかかわらず、白川先生には、尊敬の気持ちとともに、一種の親近感を持ち続けて、こんにちに至っているのです。

思うに、それは、研究に余念がないときにも、先生は、快く研究室に迎え入れてくださったことから来るよつでありました。怠けごろの虫にとらわれがちな小生は、おそろおそろ、先生の研究室をノックする。よほどの時でない限りは、先生は、にこやかに迎え入れてくださる。そして、貧乏な哲学生などが、平常、ほとんど口にしらない、上茶や羊羹をいただく。さつと、こんな関係の年月であったのです。

しかしなんぼなんぼでも、それで、先生を敬愛するというわけではありません。お茶を頂きながらの、先生との閑談のなかで、実は、先生の学問精神がほとばしるのを感じるのが常であったのです。それが、小生の怠けごろを浄化してくれるのであります。先生の部屋を辞したあと

は、心気爽快。素直に、机に向かうことができたように回顧されます。わたしは、先生からは学問する「ころ」を注入していただいたように思います。先生の存在は、いわば、精神注入樺みたいなもので、その意味でも、不肖の身は先生を学問の師と仰いでいる次第であります。

平成のソクラテス・白川先生

現役の際は、ときおり、先生を研究室に訪ねて、貴重な時間をいくらか割いていただく程度でありましたが、定年後は、先生の漢字学の世界に、多少なりとも触れてみたい気が、無学ながらもしてきたのです。ちょうど、先生が「文字文化研究所」の所長兼理事長に就任されたのを機に、先生の、二〇回にわたる講義が企画されました。一年に四回、五年にわたる大構想であります。

ひろく、人々に、語りかけようという先生の発意があったのでしよう。一見、気難しく見える先生ではあります。書齋に閉じこもって、門外の人々に一顧だにしない頑なさ、先生にはありません。講義開始の平成二年当時、すでに、先生は、八九歳になっておられました。「先生、大丈夫ですか」と、小生、事前にいささか心配した覚えがあります。

立命館大学名誉教授
西川 富雄（50才）

にしかわ とみお

一九二六年生まれ、五〇年立命館大学文学部卒。専門はドイツ哲学。九一年本学名誉教授。二〇〇四年瑞宝中綬章受章。



す。が、その先生は、一回も休むことなく、先生の独創的な漢字学の大系を見通した講義を見事に了えられたのです。

九〇歳を超えても、先生の講義には、なにほどの衰えも見られません。ほぼ九〇分。しゃんとした姿勢からほとばしる張りのある声は、広い会場にくまなく届いて、多くの場合、五〇〇人を越える受講者を退屈させないものでした。小生も、肺ガン手術のために、途中で二回はかり欠席したほかは、皆出席、一所懸命に受講しました。

あの、ややこしい甲骨文字を、さらに、複雑多様な画からなる古代文字を、よくもあれだけ讀んじることが出来るものなのか。その博覧強記ぶりに、凡庸の私は、ただただ怖れの感をいだくばかりでありました。哲学を業とする小生が、さらに感心したのは、古代文字を読み解く先生の視点には、ひろく社会思想的視

点があり、その宗教学的、文化人類学的な読みのほかに、比較思想史的視点もあって、古代万葉の読みをまで包括していることあります。ポストモダンの思想家まで消化するその頭の柔らかさには、驚嘆するしかありません。

これこそ学問の怪物であるという思いで、帰りの地下鉄、わたしは快い興奮をおぼえながら、しばしば考えたことがあります。「この深遠な講演に、どうして、どうも多くの人が、倦むことなく聞き痴れるのであるのか」と。まさか、五〇〇人の人が、古代漢字学を学ぼうというわ

けではないであろう。小生が、会場で親しく会話を交わす人といえは、たとえば、岐阜は大垣から欠かさず一緒に聴講するY氏（元、岐阜県教育委員会教育委員長）であり、古代インド哲学や理論物理学の名譽教授であります。そんな人たちも、小生と同じく素人であります。それが、どうしてどうも白川学にこころ惹かれるのであろうか。

周知のように、先生は立命館を定年退職するまで、ほぼ半世紀のあいだ、学外に出ることはなく、ひたすら、学術研究に没頭されていたのです。小生の現役頃は、小生には読め

ない論文・著書が主でありました。定年後、ほぼ一〇年は、畢生の大作・字書三部作の刊行に精魂を傾けられました。書齋の外に出て、人々に語りかけようという思いに、先生がなられたのは、そのあとでありました。そうなる、ほぼ半世紀にわたる漢字学の蓄積は、奔流をなして流れ出たのです。その迫力は、ひろくひとびとのこころをとらえました。まるで精神界の怪物のように、白川静は立ち現れたのです。天才というのは、多くの場合、憑依の人であります。でも先生は、それともちがう。冷静に、ものごとを客観化する知性の人である。考証は、すこぶる論理的であります。

それでいて、先生が、年齢、性別

を問わず広くひとびとのこころをとらえるのは、小生には、怪物が一人に人々を丸呑みにするかのように見えるのです。もちろん、小生も呑み込まれるそのひとりであります。おそらくは、半世紀あまりの学問の蓄積が、いったん、公教的となつて、ほとばしるとき、人々を丸呑みにしてしまつたのでしょう。学問は、秘教的であつてはならず、真理は公教的でなければならぬと説いたのは、難解な哲学で知られるヘーゲルであります。先生が、ようやく書齋を過ぎてから、著作や講演を通じて人々に親しく語りかけようとしたのは、その漢字学を秘教に終わらせなためでもあつたかと思えます。そしてその著作や講演は、決してただの解説・啓蒙に反するものではあり

ません。いずれも、学問精神のほとばしりの結晶なのです。

それを感じ取った多くの読者が、九〇歳を過ぎた先生の講演にも、熱心に聞き入るのでしよう。広い国際会議場を埋める五〇〇人を越える人たちに、訴えるかのように話しかけられる先生は、小生には、実に、平成の日本のソクラテスと映るのであります。その昔、ギリシアのソクラテスは、街頭に出て人々に語りかけました。対話を通じて、かれは、ひとびとに、ものごとの真実を問い求めてやまない精神の覚醒を促したのであります。それが、まさしく、こんにちに至るまで、哲学する、いや学問する精神の原点であること、いうまでもありません。

ソクラテスは著作を遺しませんでした。したが、平成の白川先生には、膨大な論文、著作があります。そして先生が、ひろく、ひとびとに語りかけようとするとき、それは、ただの学識の披露ではない。中国を初めてして日本、朝鮮半島をも含めての漢字共有圏つまり、広く東アジアの文化的統合を、次の、いや次の世紀にまで展望しての理念があります。それは、中国にあつて昔、幾多の挫折を味わいながらも、遊行のうちにあの普通の学問精神を後世に伝える孔子の姿とも重なるように思われます。白川漢字学には無学でありながら先生を学問の師と仰ぐのはおこがましいかもしれませんが、先生は、小生にとっては、やはり、有難い学問の師なのです。



書齋にて

先生を語る

やさしい先生

写真提供：平凡社



はじめは白川先生のお宅へ伺ったのは一九九八年の暮れのこと。先生の著作集刊行開始にあたり、かつて小社で『字通』を編集し、退社後もフリーとして引き続き先生の著作集を担当される岸本武士氏について、私も先生とお仕事をさせていたいただくこととなったのです。

「中国古代を研究されている「高年齢の先生」ということで、最初は大変緊張していたのですが、いざお会いしてみると、圧倒的な存在感ながらも決して威圧的ではなく、張りのあるお声で熱くお話される「様子にたちまち魅了」されてしまいました。

その後、著作集に加え、『文字講話』や『桂東雑記』などの単行本も出さ

せていただくこととなり、京都—東京間で三日と空かずに原稿やゲラの宅配便が行き交うことになりました。白川先生はなんでも早め

めにお送りくださり、今までこちらから催促したことはほとんどありません。締切を守ってくださらない著者が多いなか、これは本当に驚くべきことです。さらに先生からいただく手書きの原稿は、いつも綺麗に和綴にされ、原稿用紙の大きさに合わせた広告チラシなどが表紙としてつけられています。またある時は、先生用の特大サイズのゲラが、途中雨に濡れることを心配されたのでしよう。これまた特大サイズのビニール袋を内袋としてお送りくださったのですが、そこには緑色のわかめの絵に「三陸わかめ」の字が大きく書かれ、袋の底にはわかめの破片が……ということもありました。

また、先生は原稿やゲラをお送りくださる時、必ずお手紙も一緒にくださいます。急ぎの時は用件のみ大抵は先生の近況とともにこちらの様子を気遣う一言が添えられています。最初は特徴的な筆跡の解読に苦労しましたが、最近はいよいよ大体のこと（！）がわかるようになりました。メールが主流となり、手書きの文字を見る機会が少なくなった昨今、先生の力強い直筆のお手紙を拝見すると、むくむくとやる気がわいてきます。

几帳面に表紙のつけられた原稿、再利用の袋、心こもった手紙。丁

写真提供：平凡社



寧に梱包された先生からの荷を開ける度に、物を大切にし、自然に相手を感じ、来る日も来る日も机に向かう。そんな先生の姿が目につかびます。「白川先生はやさしい」。先生を知る方は皆さんそうおっしゃいます。孔子の「狂狷きやうけん」の言葉を引き、「世間を変えるのには狂きやうがなくてはあかん。狷けんというのは、死んでもそういうことはせんぞ、という潔癖性があること」とおっしゃり、九四歳になられてなお、「ぼくはやるよ」と世の中を変えんと研究に取り組み続ける。こつとした決然たる姿勢と強い意志が先生の学問の根幹であり、多くの人を惹きつける理由の一つであることは確かだと思います。ただそれに加えて、先生の学問の底には、静かな日々の暮らし、自然なやさしさ、他への共感といったもの

が常に横たわっているように思われます。「研究にあたり、先生はまさに「志こころざしあるを要す」「恒とこあるを要す」「識しあるを要す」の言葉を実践されていますが、さらに先生の学問には「自みづかすと」「やさしくある」ということが加わっているように思えるのです。だからこそ、あのよつに『詩経』や『万葉』の世界を豊かに描かれ、一文字一文字にあれほど生き生きとした古代中国の人々の暮らしや歴史を見られるのではないが。古来あらゆる自然物が繰り返してきた日々の営みの上になされた学問だからこそ、多くの人の心に響くのではないか。そんな気がいたします。

文化勲章を受章され、先生の学問には益々多くの関心が寄せられています。小社では昨年の『常用字解』刊行に合わせ、著作集編集チームに加えて、字書改訂版チームが新たに置かれました。先生の志を達成すべく、また、先生の著作を待つ多くの方の期待に応えるべく、今後とも色々な方のご指導を受けながら、先生の著作をできるだけよい形で出せるよう努めてまいりたいと思っております。

株式会社平凡社 編集者
竹内 涼子

たけうち りょうこ

一九九〇年、株式会社平凡社入社。『白川静著作集』同、別巻、『回想九十年』、『文字講話』、『桂東雑記』などの白川著作の編集に関わる。

半世紀のクラス会と白川先生

白川 静先生 略歴

- 1910年 福井市に生まれる。
- 23年 大阪へ出る。住み込み先で漢詩や文学書に親しむ。
- 33年 本学専門部文学科国漢学科入学。
- 34年 文部省検定試験に合格し、中等教育国語科免許を受ける。
- 35年 立命館中学校教諭となる。
- 36年 専門部卒業。
- 41年 本学法文学部漢文学科入学。
- 43年 卒業。
- 44年 本学専門部教授となる。
- 48年 本学文学部助教授。
- 51年 日本甲骨学会結成に加わる。
- 54年 本学文学部教授。
- 62年 文学博士の学位を受ける。
- 81年 本学名誉教授。
- 97年 文字文化研究所所長・理事長に就任。

【受章・受賞】

- 1984年 毎日出版文化賞特別賞
- 91年 菊池寛賞
- 96年 京都府文化特別功労賞
- 97年 朝日賞
- 98年 文化功労者
- 99年 勲二等瑞宝章
- 2001年 井上靖文化賞
- 04年 文化勲章

【主な著作】

『字統』『字訓』『字通』『常用字解』
(以上、平凡社)

『白川静著作集1~12』
(平凡社)

『金文通釈』『説文新義』
(白鶴美術館) (五典書院)

(以上、平凡社『白川静著作集別巻』として修訂復刻刊)

『文字逍遥』『文字遊心』
『回思九十年』『文字講話』
(以上、平凡社)

…他、論文・著書多数



美素奈会総会(2003年)にて。白川先生は中央。後列左端住岡氏、その隣奈佐氏。

白川先生、文化勲章ご受章おめでとございます。立命館中学(旧制)第三十七回卒業生(一九四三年卒)同窓会、「美素奈会」会員一同、心より慶び申し上げます。
私たちが先生に教えを受けましてから、かれこれ六〇年になります。先生は、第二回会合の場で我々の会に名前を付けて下さり、半世紀にわたって続けられてきたこの同窓会に、よほどのことがない限りいつもご出席くださいました。先生ごお話しをすることを楽しみに、今も敬いの気持ちをもって、我々はネクタイ姿で集まるのです。
九〇歳をお迎えになった年に、司会者が「卒寿」と申しましたところ、先生は「卒は卒去の意に用いる字なので、鳩寿と呼ばれたい」と言われ、鳩寿という言葉について講じてくださいました。その席では、三年先の約束もしておいででした。一同、先生のお元氣さに驚いた次第でした。



「孔子曰 遊べ遊べ」。授業中の白川先生と生徒。



白川先生(中央)立命館中学校新任当時(1935年)

大きく口を開け、はつきり、ゆっくりとした先生のお話しぶりには、信念が滲み出ています。それは中学校の教壇に立たれていた頃と変わりません。当時はまだ体罰などもいくらでもあった時代でしたが、先生は声を荒げて生徒を叱るようなことは一切なさいませんでした。「自分は教師である」といつ威圧的な態度もなく、謙虚の一語に尽きる先生でした。中学校では、『論語』や『孟子』

をよく講じておられ、それは生徒からすれば、やや難しいお話であったのですが、その学識も、お人柄も、むしろ卒業した後に我々の心に深く染み入ってきたと申し上げてよろしいでしょう。努力してやまない先生、年齢に負けない先生。先生はいつまでも、私たちにとって、師のなかの師であります。

立命館中学校
第二十七回卒業生同窓会「美素奈会」
住岡 幹雄 (49法)
奈佐 利夫 (45専工)

プロゴルファー

古市 忠夫

さん(63 経済)

勇気ひとつで焼け跡に立つ

古市 建て直した家で、ほぼ三年ぶりに自分の風呂に入れたとき、わんわん泣いたよ。三〇分も…。もっと泣いたのは、被災後初めてゴルフに行ったとき。それ以来、プレーする前に深々と頭を下げるようになった。有難う、ありがと。生きているだけで有難いのには、ゴルフができるなんてね。

あの阪神淡路大震災によって、古市さんが暮らす神戸市長田区鷹取商店街一帯は焼け野原と化した。「大事なのは、命」。カメラ店を営みながら、地区の熱心な消防団員でもあった古市さんは、迫る火の手から一人でも多くの人を救い出そうと、己の事を顧みずに街に飛び出した。そして、家族四人の命のほかは、全てのものを失った。

古市 ものすごく落ち込んだ夜、枕元に置いたラジオから聞こえてきた言葉が、胸に響いた。「お金をなくすのは小さな損失、信頼を失うのは大きな損失である。しかし、勇気を失うことは、全てを失うことである」。家も

店も、金も、信用も、その時にはなくなっていた。けれども、勇気はあった。「勇気さえ失わなかったらいいんや。よっしゃ!」

と、思ったよ。毎晩毎晩泣いていた嫁さんに僕は、「悔いのないように生きよ、正直に生きよ」こればかり言った。これという算段はなかったけれど。

命以外の全てを失ったというのは、厳密に言えば正しくない。自宅から離れた駐車場に止めていた車は、幸い無傷であった。そしてトランクを開けて、息をのんだ。愛してやまないゴルフのクラブが入っていたのだ。ゴルフバッグを車に入れたままにするなど、日頃は考えられないことだった。

三〇歳で始めて以来夢中になり、時間と金を切り詰めて続けてきたゴルフ。もともとスポーツ好きで、立命館大学ボート部時代には関西レガッタ優勝メンバーとして鳴らした古市さんは、めきめきと腕



ボート部時代



豪快なショット

頑張れることへの感謝を胸に



心で勝負、プロテスト

ね。さっきのラジオの話もそうなんだけれど、人間必ず、誰かと、あるいは何かとの出会いと別れを繰り返しながら生きていく。その中で、小さなきっかけを活かして自分の力にできるかどうか。それは柔軟な心を持っているかどうかにかかっているんだよ。物やお金を追いかけているうちは、僕も気付かなかったけどなあ。

つかなくてね。多額の住宅ローンを抱えているんだから、例えば僕はガードマン、嫁さんはパートに出て、こつこつ返す。それが現実的な道やっ

たと思う。プロにはね、ゴルフの英才教育を受けてきた二〇〇人近い若者に勝って、テストで上位五〇人に入らんかったら、ならへん。まず、難しい。けれども、全く可能性がないわけではなかった。

妻や娘たちには「夢では食べていけない」と大反対された。プロテスト受験にかかる諸費一〇〇万円の調運も頭が痛い問題だった。しかし、親友の「あんたほどゴルフが好きなのはいない」という一言が、古市さんを奮い立たせた。心で闘おうと。

まずは街の復興を。古市さんは街づくり協議会の副会長となって区画整理事業に奔走した。「道を上げ、広場を確保して、災害に強い街に生まれ変わらせよう」。それには

古市 プロテストに合格するために、何が必要？「体力+技術」「努力」「運」と、みんな言うよね。でも僕は、それだけではないと思

った。ゴルフは心の格闘技。心とは、勇気。そして真の勇気とは、頑張る心と、頑張れることへの感謝を足し合わせたものなんだよ。被災してつかんだこの確信を、僕はプロテストで実証しようと思った。

を上げた。所属する「大神戸ゴルフ倶楽部」では、連日ゴルフ三昧のライバルたちを叩いて、クラブチャンピオンの栄冠に何度も輝いていた。しかし、あくまでも趣味であった。

地権者各々が土地の一部を提供する減歩が避けられなかった。利害が対立し、「区画整理事業から手を引かなければ、命はない」と脅されもしたが、逃げなかった。「勇気」の一語を噛み締めていた。そして、鷹取の街に復興の槌音が響き始めると、古市さんも自らの真の復興に向けて動き出した。

古市 僕の家を建ててくれた親友が、ゴルフ

仲間でもあって、プロテストを受けろ、受けろと勧めてくれた。僕もだんだんとその気になっていったけれど、どうしても踏ん切りが

誰だって、懸命に頑張っているんだ。けれども大抵の人は、持てる力の三〇％を發揮するのがせいぜいだぞうだ。「頑張る人」と「頑張れることに感謝できる人」とは全然違う。感謝の気持ちは、人の心を大きく、美しく強くする。これは間違いない。その結果、一二〇％の力だつて出すことができるようになるんだね。

震災前には、心とは不撓不屈の精神、つまり闘争心、克己心、向上心、探求心の類だと思っていた。学生時代、ボート部の苦しく辛

古市 ゴルフバッグを見つけたとき、「これで生きよう」と、道を照らしてもらったように感じた。でも、復興に目処が立たないうちはゴルフなんて考えられなかったし、本当にゴルフで生活するなんて雲をつかむような話だったから、しばらくはお預けだったけれど

Tadao Furuchi



古市忠夫さん

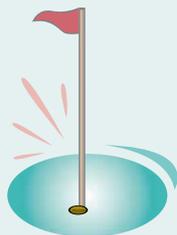
- 1940年 神戸市長田区鷹取商店街に生まれる。
- 1959年 立命館大学経済学部入学。ボート部入部。
- 1963年 大学卒業。株式会社六和に就職。
- 1968年 自宅で東洋カメラを開業。
- 1970年 ゴルフ初体験。とりこになる。
- 1979年 大神戸ゴルフ倶楽部メンバーに。
- 1995年 阪神淡路大震災で被災。区画整理に奔走。
- 1997年 自宅を再建。
- 2000年 日本プロゴルフ協会認定プロテストに合格。
- 2001年 鷹取東第一地区、神戸市内で最初に区画整理完了。
- 現在 プロ活動の傍ら、若松町11丁目自治会長としてボランティア活動にも尽力。

【著書・ビデオ】

- 『60歳からのティーショット』 日本放送出版協会
- 『ゴルフは心の格闘技』 ゴルフダイジェスト社
ほか2冊

【古市さんを描いた本】

- 『還暦ルーキー』 平山讓著 講談社



素晴らしき復興ひとつ恩返し 忠夫

自宅廊下にバタマットを掛けたり、須磨海岸の砂浜を練習場代わりにして、古市さんは猛特訓をした。写真の外商と、自治会長としての忙しい活動の合間にである。

そして、二〇〇〇年九月、プロテスト。明るく挨拶しながらラウンドする還暦目前の古市さんは、若き精鋭たちの中で異彩を放っていた。ボギーを叩いても、堂々と先頭を歩く。「失うものも、怖いことも、何もあれへん」。深いラフからの絶体絶命の

「おはようございます」と心の底から挨拶してみる。これだけでも、コミュニケーションの有難さを感じられますよ。それが徳を積むことにつながって、きつとあなたの人生が変わっていきますよ。

若松町十一丁目自治会長としての仕事は、消防訓練や、町内のお年寄りのために聞く「ふれあい喫茶」、他にもいろいろ。皆さんから僕がどれだけ元気をもらうことか。サラリーマンならばリタイアする頃だけれど、支えあって、第三の人生を輝かせることが大切だ

「震災は有難うとは、口が裂けても言えない。しかし、震災後に頑張れたことに対しては、心底、有難いと思っているよ。」

「震災は有難うとは、口が裂けても言えない。しかし、震災後に頑張れたことに対しては、心底、有難いと思っているよ。」

「震災は有難うとは、口が裂けても言えない。しかし、震災後に頑張れたことに対しては、心底、有難いと思っているよ。」

い練習に耐えて心と身体を鍛えたんだからね。震災の見舞いに来てくれた後輩が言うには、卒業するときに僕は、「砂漠の真ん中に放り出されても絶対に生き残れる力を、ボータ部の四年間で得た」と豪語したらしい(笑)。

立命館が、ボータ部が、僕の人生を支えてくれた。これは間違いない。けれど、感謝することには、もっと素晴らしい力があつた。「ゴルフができるだけで、何事もできるだけで幸せだ。有難い」。こう思うと、結果に雁字搦めになつておどおどすることなんてなくなるよ。

一打を奇跡的にクリアし、四位タイで合格、プロゴルフファーマスター古市忠夫が誕生した。現在、シニアツアーのシード選手として活躍している。

支え合いから生まれる力

古市 いま、トーナメント出場、本の出版、講演やテレビ出演、いろいろさせてもらっているけれど、自分の力だけでは絶対にこんなことはできない。人は、支えられ、生かされている存在。朝、近所のゴミを二つ三つ拾ってみる。「おはようございます」と心の底から挨拶してみる。これだけでも、コミュニケーションの有難さを感じられますよ。それが徳を積むことにつながって、きつとあなたの人生が変わっていきますよ。

とつくづく思うね。人生、長い目で見れば、戦いでも競争でもないんだよ。

ゴルフも頑張りますよ。六五歳をピークにして、七〇歳までそれを保ちたい。どんな成績を上げられるかとても楽しみだよ。七〇歳よ、早く来い！ってね(笑)。

現在、古市さんの姿を描いた映画の制作が、有名プロテニューサー仙頭武則氏らによって進められている(原作：平山讓氏「還暦ルーキー」)。来年一月、全国の劇場で封切りされる予定で、タイトルは「ありがとう」。

窓の師の恩

恩師の近況や人となり、思い出を、教え子が紹介します。

石見 利勝

元・政策科学部教授

いわみ としかつ
1994年～2003年

[専門]
都市計画、都市再開発



石見先生が創る
「新しい姫路」を
楽しみにしています！

「気づかずかしくて怖い堅物」。それがはじめて会った石見先生の印象でした。忘れもしない大学二回生の研究入門フォーラムの発表会。帽子を被ったままプレゼンをしていた学生を一喝された先生はとても怖くて、ゼミに参加しようと考えていた私は自分の選択を後悔したほどでした。

ところが翌年の春、戦々恐々としながらゼミに参加してびっくり。石見先生は、いつもニコニコしながら学生の意見に耳を傾けて下さる「優しく親切なセンセイ」だったのです。

石見先生は、いつも学生と同じ視点で指導を下さいました。「あ、それは面白いな」と学生の意見に共感したり、一緒にアイデアを考えたり、時には「それはおかしいやろー」と本気で議論を戦わせたり。三回生ゼミから七年が経ち、学生を教える立場の端くれとなった今、先生がされていた指導の大切さと難しさを痛感しています。

そんな先生が生まれ故郷の姫路市長となられたのが、二年前市長選挙前日の姫路駅前です。声も枯らしながら「姫路を変えようー」と叫んでおられる先生をみた瞬間、ハードな選挙活動でやせられた姿に思わず胸が締め付けられる思いでした。それと同時に「姫路を変えたい」という先生の想いの大きさを、実感し心が震えました。都市計画の専門家、石見先生が実践の場でどんな「新しい姫路」を創り上げていかれるのか楽しみです。

教え子

大槻 知史さん

(04院政策・政策科学博士)記

99年政策科学部卒。大学院へ進み、04年政策科学博士号取得。04年度政策科学部非常勤講師。

教え子

田中 優成さん(93国関)記

安藤ゼミ(国関)一期生(英国UNESSOX) 大学留学を経て、93年卒業。株式会社トーマン電子情報部に勤務。

二〇〇四年二月、鴨川沿いで安藤先生に再会しました。穏やかな笑顔の先生の前に座ると学生時代に戻った気がします。

国関安藤ゼミは今年一五期目を迎えます。僕は国際関係学部の一期生入学・二期生卒業ですが、新設学部で先輩はおらず、そもそもゼミって？という処からのスタートでした。さぞかし先生も苦労なさったことと思います。でも視点を換えれば、ゼミの歴史をゼロから安藤先生と一緒に作りあげたといえます。

ゼミでは「複眼」思考と全員参加がキーワード。はじめのころの決まり文句「必ず一人最低一回は発言するように」も、ゼミの終盤には活発な議論でタイムアップ。そして時には先生の研究室がその舞台に。そこはいつも学生で賑わっているのも当時の国関の風物詩でした。

先生は「複眼」思考を実践する目的でゼミ生の海外留学にも積極的でした。僕を含め、一五年間に先生に背中を押して頂き海外留学へ飛び立ったゼミ生は多数です。



安藤 次男

国際関係学部教授

あんどう つぎお
1971年～現在

[専門]
アメリカ政治外交史

に九・一一テロ以降アメリカは孤立主義・単独外交主義へと舵を切ったように見え、先生にとっても興味の尽きないことでしょう。ますます研究に邁進され活躍されている先生に、十儿を送ります。

先生と、第一回ゼミOB会を企画中です。今から再会が楽しみです。OBの方々ご連絡お待ちしております。

先生の笑顔と
「複眼」思考の
教えに感謝



笑い

人間らしく生きていく力としての笑い
 薦野 克己

立命館大学 文学部教授



笑いについて、
 どのようにお考えですか。

A

笑いは、人間が人間らしく生きていく上でもっとも重要な生きるワザや術だと考えています。笑つという能力は、生まれながらにして誰もが持っているものです。でも笑う能力を上手に引き出し、活かし、そして花開かせるためには、それなりに笑いについてのセンスを磨いたり、育てたり、あるいは刺激を与えてより活性化するような努力が必要で、生まれつき持っていない人も、環境や状況によってその能力が妨げられたり、抑えつけられたりすることが、笑いについてもあてはまると思います。例えば、笑つことをとても前向きに捉えられる環境で育ってきた場合と、笑いが専ら不謹慎や失礼と見なされ、笑つことを戒められる環境で育ってきた場合とは、その人の笑いに対する構えや振る舞いは大きく違ってくるのです。

A

私たちは通常、真面目に、ひたむきに努力し、目標に向かってまっすぐに進んでいく生き方がそ好ましいと思っています。そして、笑うことは、ふざけや茶化しと結びつく不真面目さとして、一見悪いイメージを抱かれがちです。確かに私たちは目標によって行動に方向性を与えられますが、同時にそれは目標に行動が縛られることでもあります。とすれば、目標を掲げてひたすら努力することだけが、人間の人間らしい生き方として、ただひとつの目指すべき姿なのかどうかと反省して見る必要があります。笑いをただ単に不真面目なものと捉えるのは誤りです。笑いは、「真面目」「不真面目」といった図式を突き破った意味の次元を、私たちの生き方にもたらします。まっすぐに目標を持つて生きていける時はそれでいいのですが、その目標が失われたり、色あせたりした時、目標を振り所とする生き方は大きく崩れてしまいます。そんな時、笑いは、どんな高遠崇高な目標であれ、私たちがひとつのものを絶対視して、それにすべてを注ぎ込んで身動きがとれないでいる状態を緩め解き放つ力を持っています。

真面目にひたむきに努力することを全部否定するわけではないですが、それがすべてではないということも笑いは気づかせてくれるのです。笑いは、目指すべき目標をはっきりさせようとするあまり、事柄や出来事の意味を一時的にあるいは固定的に捉えようとする我々の陥りがちな誤りを内側から突き破っていく力を持っていると思います。声を出して笑わなくても、事態を複眼的に見てみることで、新しい意味を見つ



笑いには
 どんな力がありますか。

キーワードから見る

現代



笑い

人間らしく生きていく力としての笑い

お笑いといえはすぐに思い浮かぶのが吉本新喜劇というくらい、関西においては大変馴染みがあるもの。お笑いの基本ともいえる「ボケ」や「突っ込み」は、決してお笑い芸人だけのものではなく、一般人にも十分通じるもので、そこには必ず「笑い」が存在する。

しかし、決して人々は漫画や漫才があったから笑ったのではなく、笑うためにあらゆる努力をしているように思える。昔から「笑う門には福来る」と言われるように、「笑い」には意味がある。

先日の新潟県中越地震をはじめ、台風による水害、世界での紛争など厳しい社会情勢の中で、簡単に笑えるものではないが、だからこそ「笑い」について改めて考えてみてはどうか。そこで、その「笑い」についてお話を伺った。

け、味わい、楽しむことができればそれは笑いなのです。さらに私たちは、笑いを通じて、同じ事態が複数の意味尺度で測られることを感じ取ることで、自分とは異なる立場に立つ他者に対する真容の態度をも学んでいけるでしょう。

ただ笑いは、その力を極限まで発揮させていくとき、私たちが生きていく上で支えや頼りとする価値のありようを、根底から全面的に覆ってしまいかねないような凄まじい暴力性を内に含んでいます。このことに気づいておくことは笑いを論じる上でも重要です。

厳しい社会情勢の中「笑い」の活用法についてお聞かせください。

A 笑われて怒る人もあるのは事実ですが、笑ってもらえてホッとしたりというのをもまた多くの人の実感するところです。今まさに被災されている人たちもいます。どんな状況の中でも、それを受け止め、そこから前を向いて生きていくために、笑いの力は一番大事なものであるとして人間に備わっていると思います。自分が置かれた状況の中で、その状況から少し距離をおいて、自身のありようを改めて眺め直してみると、こうでしかない頑なに思いこんでいた事態に別様の表情が現れます。一見どつどつと見えない現実を目

の前にして、ただ嘆き悲しむのではなく現実を受け止めつつ、その意味するところを変容させ、ある種笑いの対象とするのです。

当然、こんなときに悠長に何を言っているのかと思われる方もあられるでしょう。しかし中にはぎゅと、そういえばそういう風に感じることも出来る、またそんな風に見れば、くよくよ悩み苦しんでいた自分のありさまが、そこはかとなくおかしく思えると言つ方もいるでしょう。私たちは、一旦そういう笑いの力に目覚めると、とても強くなります。そんな苦境を笑い飛ばす力は、「また明日も日が昇るよ」と微笑んでいるのではないのでしょうか。



Profile
とびの かつみ

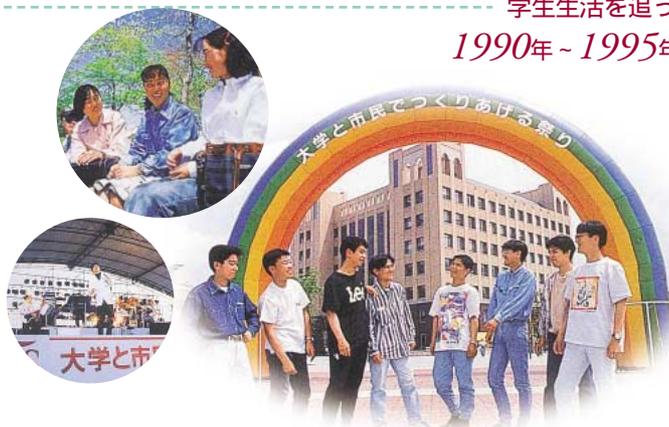
文学部人文学科教育人間学専攻 教授
【専門分野】
教育哲学、人間形成論、人間関係論

主な著書・論文

- 『先生は眠らない 生の誘惑としての教育』
- (単著、2003年、皇紀夫編『臨床教育学の生成』玉川大学出版部)
- 『生の冒険としての語り 物語のもう一つの扉』
- (単著、2003年、矢野智司・蔦野克己編『物語の臨界 物語ることの教育学』世織書房)
- 『笑いのスタンス 「笑いの人間形成論」ノート』
- (単著、1996年、光華女子大学人間関係学科編『人間関係のプリズム』ナカニシヤ出版)

立命館 あの頃

学生生活を追って
1990年～1995年頃 その②



十年前…。ついこの間のようなのに、
思い返せば、やはりあの頃。
熱き心がたぎったあの頃。

*写真は本文とは関係ありません

「立命館 UBCジョイントプログラム」 第一期生としての思い出

福島直美 (94文)

私は立命館UBCジョイントプログラム(JP)第一期生百名の一人として、初の留学を経験した。試行錯誤の八ヶ月間だった。

「英語を学びに」行くのを目的としていたことが大間違いだった！他のメンバーはカナダ人たちにうまくとけこみ問題意識をもちながら授業をうけていたというのに、私は下手な英語が恥ずかしく、引込み思案で新しい環境になじむのに人一倍時間がかかった。

理由は大きく二つ。「立命館UBCハウス」の完成が遅れ、期間の大半をUBC内のあまり美しくないテーマパーク寮で過ごすことになったこと。自炊できず、食事があわずに大変だった。もう一つは授業内容。討論や論述形式の課題、それも自分で動いて調べないとどうやっても仕上がらないものが多かった。UBCの学生は、週末ははじけていたが本当によく勉強していた。関先生の「グローバルシミュレーション」の授業は、一五年たった今でも印象に残っている。これは私が初めて環太平洋という視点で物事をとらえる勉強ができたよい機会だった。

少しずつ英語でコミュニケーションがとれるようになるにつれ、「自分がいかに深く物事を考えていかなかったか、日本の歴史や政治経済、文化について無知だったか、自分から発信できるものが何もないまま留学してしまっただか」を痛感した。おとなしいわけでも、語学力だけが及ばなかったのでもなく、解って



いるつもりだったことが、実際は心で解っていなかったのだ。世界にはいろいろな人種、言語、文化、においがあり、考え方の違いは当たり前なんだという、当然のことが、異文化を許容するキャバを広げることが、膨大な努力と勉強と忍耐なしには成

しえないと心底から思い知ったことが、私にとって最大の収穫だった。あと、一生の親友に出会えたことも。

帰国後は、ばたばたと過ぎた。就職先は地元石川の某メーカーの海外営業部で、日本通の米国人と海外通の日本人の上司の下、主にアジア各国を担当した。UBCでの失敗を繰り返さないよう必死だった。その後、一学期で最初に親となり、現在上の子は小学生。今後は、留学生のサポートやホームステイ受け入れ、児童英語指導法の勉強を続け、微力だが地域に貢献していければと考えている。

「J.P.参加者が、立命に新しい風をふきこんでいる」といわれたこともあったが、それはプログラムの効果のほんの数%。本当に大切なのはJ.P.卒業生のこれからの生き方とその積み重ね。それがあってこそ、大学あげての真の国際交流になっていくのだと思っている。J.P.参加者の皆さんの一層の活躍を祈りながら、そしてこのすばらしい機会を与えてくれた立命館大学とあの美しいUBCキャンパスに、心から感謝している。

立命スポーツ（'94.4.1）
瓦版（'96.10.29）

十年ひと昔

松本謙司（'95文）

『立命スポーツ「瓦版」です。お願いします…。春、秋のリーグ戦シーズンともなると、毎週週明けの昼休みに立命水局員全員で手配りした「瓦版」。それまで年五回発行であった体育会機関紙「立命スポーツ」に「速報性」を



求めて、一代上の先輩方が創められたこの「瓦版」は、土・日に行われた体育

会各部の試合結果をいち早く学内に広めようというものでした。

毎週土・日、近畿一円での各試合の取材を終えると、夜になってそろそろと局員たちがBOXに集合。予め想定していたレイアウトに基づき、各人が記事を最近では全く見かけなくなった「ワープロ」にて作成。感熱紙に出力し、それを切り取って直接レイアウト用紙にのり付け。見出しも限られた書体の中から、同一号ではタブらぬように地味な書体選定。一方急いで現像に出していた写真が上が

ると、原寸のまま直接ハサミで切り抜き、これまたタイレクターにレイアウト用紙に張り込むという「A1」手作業」で原版作成。体育会本部にある輪転機で印刷し、局員が学内にて配布という、まさに「十年ひと昔」の言葉を具現化するような、今では疑いたくなるような手作りの「瓦版」でした。

創刊当初はなかなかなじみの薄かった「瓦版」も、次第に学内での認知度も高まり、配っている手を伸ばしてくれたり、各食堂に置いていたものがなくなったりしていたのを見ると、なんとも言えぬ満足感が湧いてきたのを覚えて

えています。

「スポーツの高度化と大衆化」の理念の下、「立命館」の名が全国に広まって行く中で、一般新聞記者と一緒にあっての取材台戦プロのカメラマンに混じってのグラウンドレベルでの写真撮影。学生にしか、また「立命スポ」でしか経験することのできない貴重な体験でした。そのとき身に付けた「客観的に試合を観る目」は未だ衰えていません。甲子園や東京ドームの応援席で妙に落ち着いて試合を観ながら、なにやら批評ぶつたことをいっているおやじがいたら……、それが私です。

阪神淡路大震災
ボランティア活動

内山博史（'00政策）

一九九五年一月二七日午前五時四六分。未曾有の被害をもたらした阪神・淡路大震災が起きました。後期セメスターの試験期間中でしたが、当然試験は中止。それでもキャンパスのラウンジに集ま

ってきた暇な(?)学生たちの間に「何かしなければ」という思いが広がり、さっそく義援金の募金活動が学内や白梅町の街頭で始まりました。私たち政策科学部一期の自治会やオリター団のメンバーが中心になって「ボランティア情報交流センター」を立ち上げ、まずは現地でのボランティアア

ズを確かめようと原付バイクと徒歩で神戸市役所まで行き、残ったメンバーが後方でボランティア希望者の登録や救援物資提供の呼びかけをしたのです。

多くの学生たちがボランティア登録に応じてくれ、現地でのさまざまな活動に従事しました。中には五〇日以上も現地でテント暮らしをしながら活動を続けたツワモノもいました。後方であるセンター事務局の運営にも、朝から晩遅くまで多くの



ボランティアが参加してくれ、当初初めて学部生必携となったPowerBookを駆使してボランティア管理・派遣や救援物資の在庫管理などをしたことが思い出されます。

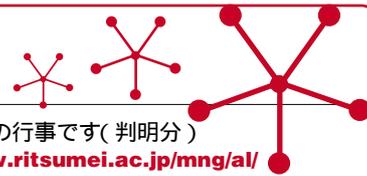
余ってしまった入試の試験監督用の弁当を差し入れてくださる大学職員の方がいたり、活動の足しに、と大学の理事会で募金を呼びかけてくださった教授の方がいたり……。「信念をもって動けば応えてくれる人たちがいるのだ」と実

感させていただいたことは本当にいい経験でした。

「ゴールデンウィークのセンター閉鎖まで約三ヶ月の短い期間でしたが、ボランティアを通して経験したことは、きっと今でもそれぞれの仕事や生活の中で何かの種になり芽吹いていることだと思います。

昨年各地で頻発した災害に対するボランティアやNGOの素早い活動を見るにつけ、「ボランティア元年」と言われたあの頃の、失われた尊い命と捧げられた多くの人の自発する気持ちは、脈々とこの世界に流れていることを感じています。

校友会ネットワーク



昨年12月中旬～本年2月下旬に行われた各団体の行事です(判明分)

*詳しくは校友会ホームページをご覧ください <http://www.ritsumei.ac.jp/mng/al/>

都道府県校友会ほか

- 12/11 福島県校友会総会(34名・郡山ビューホテルアネックス)
- 1/22 長崎県校友会広小路会新年会
(29名・長崎ビューホテル)
- 1/29 北海道校友会第50回総会
(110名・札幌パークホテル)
- 2/19 大阪若手校友All Rits
早春の集い(54名・ホテルグランヴィア大阪)



長崎県校友会広小路会新年会

地域校友会

- 12/11 京都春風会(25名・衣笠キャンパス)
- 12/17 ニューヨーク校友会忘年会
(8名・日本料理店「梓」)
- 1/15 シカゴ会新年会
(14名・達磨レストラン)
- 1/19 英国校友会新年会
(8名・Kaya Korean Restaurant)
- 1/22 奈良若草会
(85名・三井ガーデンホテル奈良)
- 1/22 タイ国校友会懇親会(7名)
- 1/23 浜松会新年会
(50名・ホテルコンコルド浜松)
- 1/23 ロスアンジェルス校友会新年会
(13名・樂宮海鮮酒家)
- 2/5 姫路立命会総会
(68名・まねき食品本社)
- 2/5 愛媛県松山支部総会(50名・メルパルク松山)
- 2/6 八幡支部新年会(30名・流れ橋四季彩館)



ニューヨーク校友会忘年会



シカゴ会新年会



英国校友会新年会



タイ国校友会懇親会



ロスアンジェルス校友会新年会

職域校友会

- 2/19 北朋会総会
(20名・シェラトンホテル札幌)



北朋会総会

学部・学科校友会

- 1/21 建設会三重県支部総会
(50名・榊原温泉「河鹿荘」)
- 1/22 建立会総会
(150名・ヴィアール大阪)



建立会総会

サークルOB・OG会

- 1/15 女子ホッケー部二冠達成祝賀会(80名・京都パークホテル)
- 2/12 ソフトテニス部OB会総会(50名・ホテルニュー京都)
- 2/26 フェンシング部女子エペ全日本初優勝祝賀会
(京都ホテルオークラ)
- 2/27 写真研究会OB会総会(25名・本能寺会館)

その他の会

- 12/11 坂野光俊ゼミ「俊友会」総会(ホテルアンビエント堂島)
- 12/29 2000年度BKC学生オフィスOB・OG会総会
(13名・丹羽邸)
- 1/9 95年卒産社人間文化コース1回生Mクラス同窓会
(衣笠キャンパス レストラン「カルム」)
- 1/21 楽人会勉強会
(15名・京都司法書士会館)
- 2/5 湘南クラブ
(25名・ホテル好養)
- 2/15 理工学部ESS関東
OB・OG会総会(「TOMO」)
- 2/19 昭和37年卒「名古屋会」懇話会(「蓬莱」)
- 2/19 安藤哲生ゼミOB会(70名・キャンパスプラザ京都)



楽人会勉強会



いつも 現役部員と共に

ソフトテニス部OB会 命友クラブ

Meiyu Club

立

命館大学体育会ソフトテニス部は、一九一九年に軟式庭球部として創設されて以来、今年で八六年という長い歴史を有します。私たち命友クラブも、現役部員の支援を続けながら彼らと一緒に歩み、毎年二月に総会と四回生の送別会・祝勝会を開いています。

近年盛大だったのは、昨年の創部八五周年記念式典でした。この年、男子は西日本大学対抗選手権大会優勝、関西一部リーグ戦春秋連覇、全日本大学選抜王座決定戦準優勝と目覚ましい戦績を上げ、女子も東西六大学王座決定戦で優勝、節目の年にふさわしい活躍ぶりでした。

多くの来賓や命友クラブメンバーから現役生へ、「日本一を越えて、大きく世界を目指してほしい」という激励のエールや拍手喝采が送られ、卒業する四回生が答辞を述べました。校歌・応援歌に湧き、新たな闘志が生まれました。また、命友クラブ関東支部・東海命友会からも参加があり、大いに心強いものでした。特に関東支部は、組織強化の取り組みを立命館スポーツエロージャーナルから表彰されるなど意気盛んな団体です。

ソフトテニス部男子は第四期黄金時代への布石を、女子は第一期黄金時代を求めて、創部一〇〇周年に向かって更なる発展を目指しています。私たち命友クラブも、水田雅博監督（76歳）を支えながら頑張っています。皆様のご声援をよろしくお願い申し上げます。

命友クラブ会長 川崎哲郎（58歳）記



タイムカプセルの 鍵はみんなの胸に

立心会'67卒業同期会

Risshinkai

わ

私たちは今から三八年前に文学部心理専攻を卒業しました。学生時代には河原町通りに市電が走り、京都駅からの草津線にはまだ煙を吐いて蒸気機関車が走っていました。コピー機もなく、卒業論文などを手元に残そうと思えば筆写しか方法がありませんでした。電話も十分に普及しておらず、卒論の指導のために担当教授から電報で呼び出されるというようなこともあった時代です。

わたしたちは卒業以来四年に一度京都でクラス会をしています。昨年には二条の全日空ホテルで会を催し、明るく日は嵯峨野で遊びました。還暦を迎えたか、まもなく迎えるという時期でもあり、学生時代の思い出に交じって人生を省察する声もひそひそと聞こえておりました。わたしたちクラス会のメンバーはそれぞれにタイムカプセルの鍵を持っています。それはお互いの胸にあり、みんなが集まって眼と眼が合うとカプセルが開くのです。今回は参加者も多く、たくさん鍵でカプセルを開けたので楽しい話題は溢れんばかりでした。



時の鍵は、ちよつと油断すれば
きみの大切な過去を削りにくる
人生は油断の連続で
大切な過去は日々細り続ける
だからタイムカプセルを開けて
ときどき過去を補充しなければならぬ
抜き取った分は
みんなの少しずつの「今」を詰めておこう
明日になれば熟成した過去になるのだから

森 哲弥（67文）記

* 森氏は、詩集『幻想思考理科室』で01年度日氏賞受賞の詩人

自分らしく生きる

長森宏恭（'87経営・'03院開闢）

「松の木は所詮松の木。いくらあがいても松の木に桜の花は咲かない。ならば松の木は松の木として、美しい枝葉をつけようじゃないか」と言っている。いつも考えている。

学部在学中は研究職への思い、つまり大学院への進学を考えたものの、時流とともに卒業後は電機メーカーに就職し、今日に至っている。就職後十数年経ってもその思いは日々強まるばかりであったため、社会人として立命館の大学院に進学した。

仕事に就きながらの研究活動は予想以上に厳しく、特に講義への出席や論文の執筆には、「時間」という壁が立ち上がった。しかし時間のない社会人と言つ弱みを、逆に実社会の企業人の視点からの考察と言つ強みに変えて課程を修了し、修士学位を授与された。

学位授与式の日、かつての卒業式のように、衣笠キャンパスにある末川博名賞総長の「未来を信じ、未来に生きる」の碑の前で、記念写真を撮った。

私にとってこの碑文の意味は、ずっと大学院という「未来を信じ」、今後も「未来に生きる」研究を怠るなと言っていることを示唆しているように感じる。

最近キャリアアドバイザーやゲス

トスレ

カー

として、

大学に行く機

会がしばしば与

えられる。そこで知り

合った後輩である学生諸君には、

「松の木と言つ自分の強みを最大限に活かす様に」と繰り返しアドバイスしている。それは私が学生に教えることで、自分で自分に「松の木である自分は、自分に合った松の木らしく生きよ」と、言い聞かせているのかも知れない。

西陣のまちおこし 「千両ヶ辻伝統文化祭」

仲 治實（'69経営）

広小路と衣笠の中間地点、今出川通大宮下ル界隈は西陣織の産地で、今年で創業一〇八年になる小生の家業（生糸問屋）の地でもあります。この界隈は江戸中期より「千両ヶ辻」と呼ばれ、一日に千両の生糸、千両の織物が動いたと言われております。「バックトゥジャパン」と言われている昨今、私も家業の地の三町内の有志により、一昨年に第一回、昨年九月三日に第二回の西陣「千両ヶ辻伝統文化祭」を開催いたしました。この祭は心の原風景を求めながら地域の「伝統・文化・歴史」的意義を広くアピールする事により、地元地域の活性化及び伝統産業の発展を目指し、ならびに地域の



じゆうせき

自由席

人々の更

なるコミュニ

ニケーション

の構築を志すも

のです。生糸や帯・

呉服の問屋、織屋、町家写

真館、伝統的町家等、二五軒が出席

し、町家や歴史資料の公開、西陣歴

史研究発表、写真・屏風及び絵画・

工芸作品の展示等が行われました。

小生は左記のような研究発表を

しました。

一、千両ヶ辻歴史年表（安土桃山時

代から昭和二九年迄）

二、糸屋八町の考察（西陣・各糸屋

町の今昔と糸屋の歴史等）

三、当町内 北之御門町所蔵 天保

七年の『定書』の解説等

兩年とも話題の陰陽師安倍晴明公

を御祭神とする晴明神社の年に一度

の祭礼日でもあり、三、〇〇〇余人余

の来訪者を数え盛会でした。尚、当

祭実行委員として三田村建治様（71

経営）が活躍しておられます。この

祭を地域に根付かせ、まちおこしに

一役買えるよう努めたいと思ってい

ます。

積極性+感謝=

勇気のある日々を

富松 茂（'57経営）

幾歳月もの間にわたり、嘗々と生き、苦悩と喜び、涙と笑いの日々を積み上げていくほどに、何ともいわれぬ輝きを見せる人々との幸せな出

会いがある。この人たちの生きる姿勢が積極的である。そして謙虚である。他者を責めない。ばやかない。他人の発言に耳を傾ける。学びを続ける。いつも何かに挑戦している。そつとしていて、しかもねばり強く、だからチャーミングなのだ。

それに引き替え、皮膚にしががすすにつれて、ますます独りよがりが強まり、過去の成功体験にこだわって先輩風を吹かせ、今日を学ぼうとせず、乾涸らびた自らの経験を自慢する。そんな方々がある。周りから疎まれ敬遠され孤独感に苛まれて、加齢とともにみずみずしき、人間の魅力が失われていくのが悲しい。

趣味の世界、社会奉仕、職場生活、いずれにおいてもそれぞれが輝いて精を出さなければならぬ。私たちが誰かが、「ゆたかな感性」「みずみずしい感動」「たくましい行動力」をもって学び、労働し、社会の向上発展のため果敢に挑戦することを求められている。

熟年者が青年の熱い眼差しを浴びて積極的に生きる、感謝の気持ちで勇気をもって日々を暮らす。それがこの社会の存亡に深く関係すると思える。

本当の学問の扉を大きく開こう

大塚幸司（'89経済）

私は平成元年経済学部卒業、私の妻も平成四年文学部卒業であり

校友個人情報の 取り扱い方針

立命館大学校友会では、会の運営に必要な皆様の個人情報をお預かりしています。個人情報保護法に基づき、今後とも慎重な取り扱いに努めてまいりますので、何卒、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【個人情報の利用目的】

校友会報の発行・送付

会費徴収にかかわる事務

校友団体の新規設立にかかわる案内

校友会本部ならびに都道府県校友会等の各校友団体が主催する行事の案内

校友に対するアンケート調査の実施

校友会もしくは立命館大学からの各種依頼の伝達・送付

新卒校友名簿（非売。新卒者に新卒時のみ配付）の作成。なお、全校友名簿は刊行しない。

その他、上記に関連する業務

【個人情報取り扱い上の留意点】

本人を除いた特定の個人についての情報照会には応じない(次項の手紙転送を除く)。

住所の照会には、校友からの依頼に限り、校友会事務局を介しての手紙転送(照会主に被照会者の住所を開示しない)をもって対応する。

校友会公認団体に対してのみ、その主催する行事の案内の際に住所・氏名データを提供する。

情報処理を外部委託する場合は、「プライバシーマーク」の使用許諾を受けた信頼のおける業者に委託する。

個人情報の非公開要求等、校友各々のニーズに随時対応する。

校友個人情報管理に関するお問い合わせ、ご依頼先

立命館大学校友会事務局
〒603-8577
京都市北区等持院北町56 1
Tel. 075-465-8120

ます。

近年の立命館の躍進ぶり、学生諸君及び教職員の方々の健闘ぶりをOBとして大変喜んでおります。

さて、今回はこんなOB・OGも居るんだと知っていただきたく、あえてお便りさせていただきました。

私は卒業後、とある一部上場企業に入社したのですが、二八歳の時、総合失調症という病におかされ、現在は障害者二級という状況にあります。妻もまた二七歳の時、交通事故による頭部強打のため言語障害になり、障害者二級です。二人はたまたま同じ大学病院に通っていて、同じ立命館出身ということと結ばれた仲であります。昨年七月には、男の子と女の子の双子が生まれ、子宝にも恵まれました。

私達二人は、病を通して実に多く

の事を学びました。

私は病気になるまで、当然の如く会社を辞める事となり、その後二年余りは病床でただ人生の絶望感のみを味わって来ました。事故当時の妻の状況は実際には見ていないのですが、やはり絶望に明け暮れていたのではと想像します。

しかし「火事場のバカ力」とでも言うのでしょうか。二人はどん底の中にあって、新たな人生の希望を必死で模索し始めたのであります。

そして平成一〇年六月、二人は運命の出会いをしました。人間とは何か？ 人生とは何か？ 幸せとは何か？ 二人は必死で勉強しました。福祉学、哲学、医学、文学……、その他あらゆる学問の中からその答えを導き出そうと必死で努力し

ました。

それから六年の月日が流れました。今、私達夫婦は幸せで一杯です。心から「生きるっていいことだ！」と実感できます。

この六年間で、私達夫婦は本当の学問の意味を知りました。学問というものは、かくも凄まじい力を持っているものと改めて実感します。少なくとも大学時代には、学問というものにはこれ程素晴らしいものとは全く気付きませんでした。もし病になつていなかったら、おそらく一生気がなかつた事でしょう。ですから、在学中の皆さんはもちろん、校友の皆さんにも、多少のリスクを恐れないうで、あるいは大きな挫折があつても、いや苦しい時にこそ、学問の扉を大きく開けて欲しいのです。

最後に私の妻の日記から一つ文

章を紹介して終わらせていただきます。

平成一五年二月二日

私は事故にあつてからの方が、それ以前よりもはるかに自然な私でいられます。ありのままの私でいいという事、友人と語り合つ事、夫そして子供たちの安らかな顔をながめる事、お互いを思いやる事が、私の精神を昇華させます。

生きる事が楽しいと思つ。耐える事では成長すると思つ。心配の先取りはしないで、自分の英知から湧き出るものをじつと味わう。病になつて本当によかつた。

由美子

校友会編集係まで原稿をお寄せください。
郵送・FAX・電子メールいずれも可。連絡先は裏表紙をご参照ください。

立命館の知的国際貢献

人材育成を中心として

国際協力は、今後、日本が国際社会の中で期待される役割との関係で、極めて重要になると言えます。

教育研究を通じての人材育成を使命とする立命館は、従来にない新しい形での国際貢献をめざしています。

日本の国際協力と、学園の国際化の取り組みを重ね合わせて、知的国際貢献を進めることは、今後の立命館にとって重要な課題です。

学園は、国際協力銀行（JBIC）と協力して、中国から研修生を招聘して短期集中研修を実施するなど、国際協力活動を通じた人材育成の取り組みを開始しています。



国際協力事業センター 部長
大島 英穂

国際協力活動への取り組み

大学が関わる国際協力活動は、研究・研修、日本人専門家の派遣、調査・提言の三分野です。とくに、研究・研修の領域は広く、国際協力機構（JICA）が実施している学位の取得を目的とした留学生の受け入れは、現在、立命館大学と立命館アジア太平洋大学（APU）で、一〇カ国九六名にもなっています。

また、国際協力機関からの要請により、毎年、大学教員を専門家として各国に派遣しています。調査・提言活動は、今後、日本の大学でも本格的な取り組みが期待されている分野です。いずれにしても、国際協力を実施している国レベルの機関と大学は、組織的な関係をもちながら国際協力を進めるうえで、いっそうの努力が必要な状況にあります。

短期集中研修コース開設の背景

研究・研修分野の国際協力活動の中で、近年、第一線で活躍している人材を対象とした短期集中研修に対するニーズが高まっています。APUでは、二〇〇二年度に中国江西省の省都である南昌市政府の幹部を対象に、三カ月間の「経営管理および日本語研修」を実施しました。また、立命館大学では、昨年八月に一〇カ国の専門家を対象とした「住民参加型町並・景観保全のための研修」を実施しました。

このような実績をふまえ、学園は、国際

協力銀行（JBIC）と協力して短期集中研修コースの開発に本格的に取り組ましました。JBICは、二〇〇一年度から中国内陸部の一八省・市・自治区にある一六二天学を対象に、政府開発援助（ODA）の一つである有償資金協力（円借款）を実施しています。これは、中国内陸部の高等教育機関の質を強化・確保するとともに、日中間の相互理解の増進に寄与する人材を育成することが目的です。その一環として、立命館が、各大学の副学長や学部長クラスの大学経営に携わる幹部を対象とした短期集中研修コースを実施することになりました。



大学管理運営幹部特別研修の概要

昨年八月二九日から十一月六日までの一



委員会等の行政機関や短期大学、専門学校など大学以外の教育機関も視察し、広く日本の教育状況を理解する一助となりました。日本の生活や文化と直接触れることも研修にとって重要な要素であり、研修会場は、立命館大学衣笠キャン

○週間にわたり、重慶市にある一〇大学の幹部と行政関係者三二名を対象とした研修を実施しました。この「大学管理運営幹部特別研修」は、大学の多文化が進む一方で、他の先進諸国と同様に高等教育への財政支出が厳しくなっている中国の大学に、日本の大学、とりわけ私立大学の運営と改革の経験を参考にしてみらうことを主要な目的としています。

研修は、日本の教育制度、日本の大学政策・改革の実態、大学の使命・機能、大学改革の実践例のケース・スタディ、フィールドワーク等の内容で構成されました。一コマを三時間とした全九五コマのうち、立命館の教職員が約八割を担当し、テキストは中国語に翻訳のうえ、講義は日本語から中国語への逐次通訳で実施しました。中国では、大学の幹部は教員であると同時に、大学運営に日常的に携わっています。したがって、研修生は具体的な事例に対して極めて関心が高く、各講義は活発な質疑応答や討議を交えて行われました。また、教育

パスが四週間、BKCが三週間、東京が一週間、APUが二週間としました。研修の最後に二日間をかけて報告会を開催し、ここでは「日本における大学教職員の専門化と中国の大学教職員制度の改革」など中国の大学運営の制度改革に関するもの、「中日比較の視点からみた高等教育の教育品質と品質保証」など教学改革に関わるもの、「中国における経済的に困難な学生への経済援助制度完備への初歩的構想」など学生支援に関するものなど、多様な分野について積極的な発言がなされました。

特別研修の第二弾は、昨年一月二十五日から二月二十五日までの六週間にわたり、甘肅省の五大学三〇名の大学幹部を受け入れて実施しました。引き続き、本年二月二十八日からは、甘肅省・吉林省の大学幹部を対象として六週間の研修を実施しています。さらに、二〇〇五年度上半期だけでも五月から七月まで三週間の特別研修を毎月実施する予定です。

国際協力活動の発展をめざして

経済のグローバル化を背景にして、教育研究内容は国際社会との関係の中で展開することが重要になっていきます。国際協力活動は、学園の有する教育研究機能を国際社会の中で実践する場です。とくに、多様な形態での人材育成に対して大学への期待が高まっている中で、短期集中研修コースの開設などを通じて学園の使命を果たすことは、立命館の教育研究機能の高度化につながると言えます。同時に、重慶市の特別研

修終了後に、重慶市教育委員会と包括協定を締結し、また研修生が所属する七大学との協定締結につながるなど、国際協力分野でのこのような取り組みは、国際的なネットワークの拡大にも貢献しています。

学園は、昨年一月に、国際協力活動を本格的に推進するために、国際協力事業センターを立ち上げました。現在は、「大学管理運営幹部特別研修」の実施が中心ですが、先にも述べましたように、大学が関わる国際協力活動の分野は広範にあります。今後、学園の強みを生かし、立命館らしい特色ある国際協力事業の展開をめざしていきます。



中国・大学管理運営幹部特別研修
短期集中研修の実施実績および予定

2004年		
8月29日～11月6日(10週間)	重慶市	31名
11月15日～12月25日(6週間)	甘肅省	30名
2005年		
2月28日～4月8日(6週間)	甘肅省・吉林省	28名
5月9日～5月27日(3週間)	江西省	22名
6月6日～6月24日(3週間)	吉林省	30名
7月4日～7月22日(3週間)	江西省	22名

学術系・学芸系 クラブの活躍

二〇〇五年一月二十九日、第三六回草津市PTA大会で、昨年八月に小学生を対象として一泊二日の科学体験教室を実施した立命館大学びわこ・くさつキャンパス（BK C）の学生実行委員会が功労表彰（団体の部）を受けました写真。「立命の家二〇〇四 ようこそ！科学と英語の世界へ」と題したこの体験教室では、これまでで最多の七つの学術系団体が、参加した親子とともに様々な企画を行いました。今回の表彰は、その内容が高く評価されたものです。同様の取り組みは衣笠キャンパスでも行われ、陶芸部、手話サークル歩む会、天文学研究会の合同企画「星を見よう！陶芸をしよう！手話をしよう！〜夏休み最後の思い出を立命館大学で〜」が同じく昨年八月に開催されています。

これは一例に過ぎません。二〇〇四年度だけでも将棋研究会や囲碁研究部などのクラブ・サークルが大学日本一を達成するなど、現在、立命館大学の学術系・学芸系のクラブ・サークルの活動は大変活発になっています。その活躍に共通する特徴は、活動範囲をキャンパス内に限定せず、積極的に学外との交流を深めたり、選手権やコンクールへ参加するなどして他大学と頂点を競い合ったりするところにあります。そして多くのクラブが、厳しい評価や温かい励まし、時には小学生の輝く瞳など、学外で得たものを自分たちの成長につなげることに成功しています。大学では学術・学芸クラブの活動を今後も支援していきます。校友のみならず、学生たちの取り組みに温かいまなざしを賜りますようお願いいたします。



選手権やコンクールに参加しているクラブ・サークル(2004年度)

応援団チアリーダー部：関西チアリーディング選手権をA・B両チームが突破、日本選手権に出場。

応援団吹奏楽部：創部以来初めて全日本学生吹奏楽コンクールに出場し、銀賞受賞。

RBC（立命館大学放送局）：NHK全国大学放送コンテスト テレビドキュメンタリー部門で優勝、文部科学大臣奨励賞を受賞。

法友会：春季関西学生法律討論会 立論の部で第1位

メンネルコール：全日本合唱コンクール大学B（33人以上）の部で銅賞

RCC（立命館コンピュータクラブ）：ACM国際大学対抗プログラミングコンテスト出場 アジア19位

将棋研究会：王座戦・全日本学生将棋団体対抗戦3年連続完全優勝。1回生が学生名人に。学生女流名人戦優勝。

囲碁研究部：大学囲碁選手権で初優勝。第41回全日本学生囲碁十傑戦個人優勝。

珠算部：全日本通信珠算競技大会団体総合競技一般の部9連覇

バトントワリング部：マーチングバンド・バトントワリング全国大会2年連続3回目のグランプリ、内閣総理大臣杯獲得。

かるた会：全日本大学選手権大会3・4回生の部、同2回生の部、同1回生の部すべて優勝。

EV-Racing：ソーラーカーレース鈴鹿2004 8時間耐久レース総合8位

地域との交流を進めているクラブ・サークル(2004年度)

交響楽団：大阪シンフォニーホールでの創立50周年記念演奏会で史上最高の観客動員

自立のための道具の会：スリランカでのNGO活動実施

落語研究会：年間100日を超える「賛助活動」実施

陶芸部：衣笠小学校の児童を対象に体験作陶を実施

茶道研究部：三重県松阪市で夏季遠征茶会を実施

「立命の家2004」のプログラム

RCC（立命館コンピュータクラブ）：パソコンを使ったオリジナル名刺作り

飛行機研究会：模型飛行機作りと飛距離を競う大会を開催

ロボット技術研究会：「ブッシュライトロボット」作り

草津天文研究会：手作りプラネタリウムの鑑賞、星座クイズ、星にまつわ

dig up treasure（縄跳びのサークル）：文化・スポーツ交流協定に基づき韓国・慶熙大学校を訪問

けん玉研究会：琵琶湖けん玉道選手権大会を主催運営。全日本学生けん玉選手権では個人優勝。

NEXUS（バドミントンサークル）：草津市立志津小学校でのバドミントン指導

奇術研究会マジックプレイヤーズ：年間50回を超える地域交流を実施

る紙芝居作り

ESS（英語研究会）：英単語作りゲーム大会開催

音響工学研究会：手作りバイオリン作り、紙コップを使ったスピーカー作り

物理科学研究会：ペットボトルロケット飛ばし

「星を見よう！陶芸をしよう！手話をしよう！」のプログラム

天文学研究会：天文講座、星の観察など

陶芸部：陶芸講座 茶話、皿、コップの製作など

手話サークル歩む会：手話講座 「ジェスチャー伝言ゲーム」、「手話コーラス」など

その他の活動

法律相談部：大分県別府市にて移動法律相談を実施

地理学研究会：岐阜県郡上市にて地域調査を実施

考古学研究会：「朝原山・長刀坂古墳群 - 京都市嵯峨野群集墳の分布・測量調査報告 -」発行

探検部：中国国立溶岩地質研究所と「第8次日中共同洞窟調査」を実施

News立命通信社：石毛宏典元オリックス監督、大家友和投手、小島克典ライブドア暫定GMらを招いてのスポーツフォーラムを主催運営

第53回全日本大学サッカー選手権大会において、立命館大学は、創部52年目にして初の決勝進出を果たした。

1月16日(日)に国立霞ヶ丘競技場にて行われた駒澤大学との決勝戦では、残念ながら2-5で敗れ、準優勝に終わったが、立命館大学のサッカーが全国レベルでも通用することを証明した試合だった。

そんなサッカー部を主将として引っ張った4回生の水谷敦さんにお話を聞いた。

サッカーとの出会いを教えてください。

地元の少年団に誘われたのがきっかけでサッカーをするようになりました。そのころは元日本代表のラモス選手にあこがれ、MFをしていました。

中学3年生頃から「フェイントをかけてくる相手をどうやって止めるか」という相手との駆け引きに面白みを感じ、DFのポジションにつくようになりました。それ以来DF一筋でやってきました。

立命館大学サッカー部の魅力はどんなところですか？

他大学と比べると学生の自主性に任せてくれる部分が多いことだと思います。おかげでサッカー以外のことで成長できる部分も多かったです。今年の立命館は攻撃的なサッカーをしていました。センターバックとして守っている僕としては「もうちょっと守備もやってくれよ」と思うときもありましたが、その分、点を取ってきてくれるので、後ろから見ていても楽しませてくれる攻撃陣でした。やっけていても、見ても面白いサッカーでした。

米田監督とは、毎日話し合い、学生のや

Rits One ときの人



水谷 敦さん

立命館大学体育会サッカー部 主将
産業社会学部4年生

A t s u s h i M i z u t a n i

創部52年目の快挙 全日本大学サッカー選手権 準優勝！

りたいことと、勝つためにやらなければいけないことをすりあわせ、毎日の練習や試合で実践するようにしました。その成果が、秋のリーグの中盤からチームがかみ合いたし、とてもよい状態で全国大学選手権を戦うことができました。試合を重ねるごとにチームのメンタル面が著しく成長したと思います。

全日本大学サッカー選手権では創部52年目にして初の快挙である準優勝を勝ち取りましたが、主将として引っ張ってきてどうでしたか？

ちょっと出来すぎという気もしますが、

みずたに あつし
80人以上いるサッカー部の主将。中学、高校時代には岐阜県選抜チームで主将を務める。大学では1年生時から試合で活躍していた。

ホームページもご覧ください
<http://www.ritsumeit.ac.jp/infostudents/index.html>

うれしかったです。2003年に人工芝の練習場が完成して環境が整ってきたことや、立命館の持ち味である攻撃的サッカーを貫けたことも良かったのだと思います。

僕は、練習中によく声を出して、自己主張も強いからという理由で推され、主将になりました。個性の強い選手の集団なので、それぞれの良いところを消さないように、選手の気持ちを同じ方向に向かせることに苦心しました。選手同士の競争意識も高く保つことができ、お互いを磨きあうことができたと思います。

決勝では失点はしましたが、立命館のサッカーはできたと思います。駒澤大学は決勝までの5試合で1失点しかしていないのですが、僕たちが2点取れたことは、立命館の攻撃が全国レベルでも通用するということだと思います。

卒業後はどうされるのですか？

サッカーは大学で終わりにします。もちろん趣味ではずっと続けていくとは思いますが、社会人になったら後輩の試合を応援に行きたいですね。国立で負けたことで実力の差を感じることができたと思うので、後輩たちにはそれを埋める努力をして全国制覇を成し遂げてほしいです。OBとして見に行くのも、それはまた楽しいんじゃないかなと思います。



衣笠



八代目市川團十郎の押隈 発見

一月三〇日(火)、立命館大学が文部科学省から認定されている二一世紀COEプログラムの一つ、「京都アート・エンタテインメント創成研究」の研究資料から、江戸期の歌舞伎役者八代目市川團十郎(文政6~安政元)の押隈が発見された。

押隈とは、歌舞伎役者が舞台をつとめたあとに、自分の顔の化粧を布や紙に押し当てて記録し、ファンへの配りものや贈り物にしたもの。こ

発見



れまで最古の押隈は九代目市川團十郎(天保9~明治36)の明治期のものとされてきたが、今回発見された押隈は上演記録から見て嘉永二年頃の押隈と推定されることから、三〇年も遡る新出資料ということになる。

衣笠キャンパス西側地下食堂オープン



二月七日(火)、衣笠キャンパス西側広場に地下食堂がオープンし、初日から数多くの学生が利用した。

この地下食堂は諒友館食堂とエスカレーターで接続されており、食事用のスペースとして活用できるほか、学生の談話スペース(ラウンジ)としての活用も想定されている。学生の自主的・集团的な学びを促進するスペースとなるよう、課外活動に関わる情報発信機能も付している。

立命館大学国際平和ミュージアム新設の「平和創造展示場」と「メディア資料室」がオープン

立命館大学国際平和ミュージアムでは、二〇〇四年秋からリニューアルが進んでいる。その中の完成部分、平和創造展示室(二階)、国際平和メディア資料室(一階)などを、一月七日(金)、一般公開した。

平和創造展示室は、戦争や紛争のような直接的な暴力にとどまらず、日常的に存在する暴力について市民が問題解決の主体者になるために何ができるかを考えてもらえる施設として、現代的な課題にも取り組んだ内

容となっている。また、国際平和メディア資料室では、一万八千点の図書や雑誌、三万点の資料を無料で閲覧できる。

残る地下一階のリニューアルは四月までに完成の予定。



「加古祐二郎日記」受贈式開催

一月二十九日(土)、衣笠キャンパスにおいて、加古祐二郎氏(一九〇五~三七)の一九二五年から三六年までの日記と詩集の受贈式が行われた。



加古氏は、一九三三年の「瀧川事件」で京都帝国大学を退職し、その後、三二歳で天折するまでの間、立命館大学法経学部教授として教鞭を執

った。日記には、当時の社会情勢が色濃く反映されており、「瀧川教授退職処分」の公式の電報到着「や、わが法学部の節操を誇りとする」といった記述から、瀧川事件の様子や当時の研究者の素顔を見ることができると、寄贈した園部逸夫立命館大学客員教授は、加古氏の親類として日記を保管してきた立場から、加古と関係の深い立命館大学に保存されることができると、日記が研究者をはじめとして多くの人にふれることが、親族の希望である」と語った。

附属校



オーストラリア科学数学高等学校(ASMS)インターナショナルサイエンスフェアへ立命館高等学校生徒が参加

昨年(二月一日(水)~三日(金)) Australian Science and Mathematics School (ASMS) が行われた International Science Fair へ、立命館高等学校生六名が参加した。

ASMSはオーストラリアのモデル校であり、立命館高等学校で行った Super Science Fair へ二年連続で参加している科学教育のトップ校。立命館の生徒も、英語で研究発表やポスターセッション等を行った。国際的な舞台での発表や、海外生徒

との交流に緊張感を持って望み、大きな自信をつけて帰国した。



B K C



BKC正門前・山手幹線開通祝賀セレモニー開催

二月二四日(金)、びわこ・くさつキャンパス(BKC)正門前を通る県道の山手幹線が開通した。これにより、BKCから「びわこ文化公園都市」および瀬田東インターチェンジ方面へのアクセスが格段に向上する。

同日午前、開通を祝うセレモニーがキャンパス正門前にて行われ、草津市や立命館大学の関係者が参加した。応援団が演舞演奏を披露し、自転車競技部が山手幹線の「渡り初め」をしてセレモニーを締めくくった。

「大家ベースボールクラブ・草津リトルシニア」と地元小学生との合同練習開催

二月三日(土)、立命館大学文理総合インスティテュート特殊講義「NPO法人Field of Dreams協定科目 地域スポーツクラブの育成」の授業の一環として、硬式少年野球チーム・大家ベースボールクラブ・草津リトルシニア」と地元小学生との合同練習会が開催された。

草津リトルシニアは、現米メジャーリーグ、ワシントン・ナショナルズ所属で、立命館大学の学生でもある大家友和氏によって設立された。この事業には、「人間教育や地域の活性化」といったスポーツが持つ可能性を、野球を通じて学んでほしい」と

いう大家氏の想いがこめられており、特殊講義の受講生を中心に運営されている。



当日は、滋賀県全域から野球少年が集まり、大学や地域といった枠を超えた人々の交流が行われた。大家氏、学生スタッフ、コーチらによって、バッティングフォームの指導から怪我をした際のリハビリ方法まで幅広いアドバイスがなされ、参加した子どもたちは、真剣な眼差しで聞いていた。

外務省「日中知的交流支援事業」第二回日中エネルギー戦略学術シンポジウム開催

二月二八日(金)BKCローム記念館において、標記のシンポジウムが開催された。このシンポジウムは、外務省から「日中知的交流支援事業」に認定され、立命館大学、立命館アジア太平洋大学、浙江大学が主催し、外務省、駐日中国大使館の後援により行われた。

開会式では、長田豊臣立命館総務局長、浙江大學張俊生發展委員會主席、外務省経済局経済安全保障課竹若敬三課長が、日中間のエネルギー問題への理解を深めることや、石油消費量の多い日本と中国が、不可避の問題に対して協力していくことの必要性について述べた。

「国連防災世界会議関連事業 京都国際シンポジウム」文化遺産と歴史都市を災害からどう守るか」開催

一月一六日(日)、標記のシンポジウムが立命館大学COE(文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点)歴史都市防災研究センター等の主催により京都府会館で開催され、ユネスコの諮問機関で国際NGOのICOMOS(国際記念物遺跡会議)メンバーを中心とした国内外の専門

家が、文化遺産の防災について報告を行った。本学歴史都市防災研究センターの益田兼房教授が「文化遺産防災・京都宣言二〇〇五」の採択を参加者の拍手によって決議することを提案。程なく拍手が沸き、採択された。

弁護士・弁理士対象

「知的財産法の実務に関する特別研修」開催

二月五日(土)、立命館アカデミア@大阪にて、二〇〇四年度弁護士・弁理士対象「知的財産法の実務に関する特別研修」の開講式および第一日目の講義が行われた。

この研修は、立命館大学法学研究科、法科大学院、日弁連法務研究財団の共催で実施され、二年以上の実務経験を持つ弁護士・弁理士を対象に専門家養成研修を行い、具体的な

特許侵害事件を素材として受任から裁判まで起案を行いつつ、実務的な能力を養うもの。日本各地から三七名の弁護士・弁理士が参加し、四月上旬までに計五日間の講義の実施を予定している。



各オフィスほか



二〇〇四年度「渡辺三彦発明賞」授与式開催

二月一日(火)、BKCエポック立命21にて、「渡辺三彦発明賞」授与式が開催された。この賞は、渡辺国際特許事務所の渡辺三彦所長(68理工)の支援をいたたい、理工学部と情報理工学部における優秀な発明を奨励する目的で二〇〇〇年度につくられた。

「渡辺三彦賞」は、杉本末雄教授(理工学部電気電子工学科)が受賞し、それに続く「優秀賞」は、篠田博之教授(情報理工学部知能情報学科)が受賞した。渡辺氏から期待の言葉が述べられ、高倉秀行理工学部長の謝辞をもって幕を閉じた。

定年退職教職員紹介

誌面の都合上、経歴等は大学教員のみ紹介いたします。敬称略

教授

経済学部教授

坂本和一（さかもと かずいち）
 学校法人立命館副総長、立命館大学副
 学長、立命館アジア太平洋大学学長等
 を歴任
 専門／経済政策、経営学
 現代の企業戦略と企業組織の解明

産業社会学部教授

佐々木嬉代三（ささき きよぞう）
 学生担当常務理事、学校法人立命館副
 総長、立命館大学副学長等を歴任
 専門／社会学、社会病理学、文化人類学
 日本の犯罪と非行の研究

法学部教授

荒川重勝（あらかわ しげかつ）
 学生部次長、大学協議員、研究部長等
 を歴任
 専門／民法、法社会学
 物権法・消費者（保護）法、ならびに
 法社会学方法論

法学部教授

山本岩夫（やまもと いわお）
 外国語科連絡協議会委員長、大学協議
 員等を歴任
 専門／日系アメリカ・カナダ文学
 一九三〇年代の日系文学、ハバの文学

経済学部教授

高木 彰（たかぎ あきら）
 経済学部夜間主コース、社会人担当主
 事を歴任
 専門／経済理論
 新時代に即した経済理論の構築

経営学部教授

安藤哲生（あんどう てっお）
 経営学部長、経営学研究科長、社会シ
 ステム研究所長等を歴任
 専門／国際技術移転論
 国際経済、主に国際技術移転に関する
 研究

経営学部教授

藤田敬司（ふじた たかし）
 専門／企業会計

「組織の会計学」と「リスクの会計学」
 の研究

産業社会学部教授

長崎 孝（ながさき たかし）
 産業社会学部学生主事を歴任
 専門／独語・独文学
 ゴットフリート・ケラーの作品研究

国際関係学部教授

中村福治（なかつら ふくじ）
 二〇〇四年一月（旧日）逝去
 一般教育センター委員長、国際関係学
 部主事、大学協議員等を歴任
 専門／朝鮮近代史、日本近代史
 現代韓国社会の研究

文学部教授

齋藤稔正（さいとう としまさ）
 教職課程教室主任、教育科学研究所長
 等を歴任
 専門／人格心理学、異常心理学
 変性意識状態に関する研究

理工学部教授

松田十四夫（まつだ としお）
 就職部副部長、環境デザイン・インス
 ティテュート運営委員長、総合理工学
 研究副機構長等を歴任
 専門／分離・精製・検出法、分析・地

球化学、環境動態解析、工業分析化学
 分離分析、電気分析化学、環境分析化
 学の研究

情報理工学部教授

菊池正和（きくち まさかず）
 理工学部応用化学系系長、大学協議
 員等を歴任
 専門／分子生物学、タンパク質工学
 相互作用に基づくタンパク質の機能解析

立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部教授

橋本秀一（はしもと ひでかず）
 専門／ジャーナリズム論・メディア論
 アジア太平洋地域の情報メディアの研究

助教授

理工学部助教授

中嶋史凶雄（なかつま しゅお）
 専門／代数学
 半群の代数的構造の研究

教諭

立命館宇治中学校・高等学校

山下 誠（やました まこと）

立命館慶祥中学校・高等学校
大西芳彦（おおにし よしひこ）

事務職員

総長・理事長室
鈴木 元（すずき はじめ）

総務部

阿曾沼一成（あそぬま かずなり）
 財務部

佐々木陽一（ささき よういち）

衣笠研究支援センター

石田昌幸（いしだ まさゆき）

衣笠研究支援センター

伊藤光春（いとう みつはる）

BKC事務局

三木逸郎（みき いつろう）

総合管理センター

田中保太郎（たなか やすたろう）

キャリアセンター BKC

武仲則哉（たけなかつ のりや）

BKC大学院課

鈴木淑子（すずき としこ）

立命館中学校・高等学校事務室

高橋紘一（たかはし こういち）

GO! GO! Ritsumeikan

T S



フレ！
フレ！

CULTURE/ART 文化・芸術

問い合わせ先：学生センター
075-465-8141

将棋研究会

第21期全国アマチュア王将位大会

(12月4日 東京将棋会館)

山中恵介(理工2)準優勝

第35回王座戦・全日本学生将棋団体対抗戦

(12月22日~24日 四日市市文化会館)

団体優勝(3連覇)

第17回アマチュア将棋団体日本選手権

(2月11日 リコー・大森会館)

2-5 NEC

第25回学生女流名人戦

(12月25日~26日 四日市市文化会館)

石内奈々絵(国関3)優勝(3連覇)

囲碁研究部

第48回大学囲碁選手権

(12月23日~26日 日本棋院)

初優勝

最終戦 3-2 東京大学

バトントワリング部

第32回マーチングバンド・バトントワリ
 ング全国大会

(1月15日~16日 日本武道館)

一般の部・バトントワリング部門
 グランプリ・内閣総理大臣杯受賞

(2年連続3回目)



昨年末「滋賀県フィールドアートフェスティバル」出演時

S P O R T S & E V E N T S

SPORTS

問い合わせ先：スポーツ強化センター
075-465-7863



アイスホッケー部

第77回日本学生氷上競技選手権大会
(1月6日 釧路市)
ベスト8(4年ぶり)
2 - 5 法政大学



アメリカンフットボール部

甲子園ボウル(12月19日 甲子園球場)
3年連続5度目の優勝
38 - 17 法政大学
ライスボウル(1月3日 東京ドーム)
7 - 26 松下電工



甲子園ボウル 喜ぶ選手たち



女子バスケットボール部

第71回全日本総合選手権大会
(1月2日 東京体育館)
立命館大学はインカレ7位で出場
78 - 81 玉川大学(関東地区代表)



バドミントン部

第8回世界学生選手権大会
(12月9日~12日 タイ・バンコク)
後藤 舞(産社2)シングルス ベスト16



スキー部

第78回全日本学生選手権大会
(1月7日~13日 妙高高原・赤倉温泉)
女子回転 2位

学校対抗 女子1部において総合8位
(関西ではトップの成績)
三原優以(経済2) 回転競技2位



回転2位三原さん



スケート部

第77回日本学生氷上競技選手権大会
(1月6日 釧路市)
フィギュア男子
初優勝 吉田晋也(経済4)



サッカー部

第53回全日本大学選手権
(1月16日 国立霞ヶ丘競技場)
準優勝
決勝 2 - 5 駒澤大学



フェンシング部

第57回全日本選手権(女子)
(12月3日 岡山県玉野市総合体育館)
初優勝
準決勝 - 香川クラブ
決勝 - 山形クラブ
大学王座決定戦、全日本学生選手権とあわせて3冠を達成

12月19日 花園ラグビー場
10 - 45 帝京大学



女子陸上競技部

第2回全日本大学女子選抜駅伝
(2月20日 埼玉県庁前 上尾運動公園)
優勝(2連覇)



ゴールテープを切るアンカー池田さん

《2年連続の大学2冠》
十倉みゆきコーチ('96産社)は、小黒久子主将(経済3)を故障で欠くも、アンカーに大学長距離界の実力者池田恵美(経営3)を起用。立命館大学は、一人も区間賞を取れなかったにもかかわらず総合力で逃げ切った。これで女子陸上競技部は、11月に開催された第22回全日本大学女子駅伝対校選手権大会の優勝とあわせて、シーズン2冠を2年連続で達成した。

- 1区 丸毛静香(経済3)
- 2区 才上裕紀奈(経営2)
- 3区 樋口紀子(経済1)
- 4区 後藤麻友(経済2)
- 5区 河岸 南(経営1)
- 6区 池田恵美(経営3)



ボート部合宿所 竣工式挙行

12月17日、立命館大学ボート部合宿所の竣工式が行われ、川本八郎理事長をはじめ関係者によるテープカットでボート部の新たな拠点がスタートを切りました。

合宿所は、鉄骨造3階建、延床面積780m²の建物で、艇庫、トレーニングルーム、宿泊室、食堂、浴室など充実した施設。大津市の瀬田唐橋東詰を北上した美しい湖畔に位置しています。



喜びの優勝メンバー



ラグビー部

第41回ラグビー全国大学選手権大会

*昨秋、衣笠学園祭夜祭日の学生法律相談部のOB・OG総会に併せた企画として、法科大学院の見学会を催しました。

紅葉の美しい金閣寺の程近く、リニューアルされた西園寺記念館で熱心に学ぶ後輩達の姿は、例年の出合いとは違う思い出となりました。

今春、立命館からの賀状には、来年開校予定の新しい小学校や二条駅前キャンパスの立派な完成予想図が描かれていました。新しい学舎で学べる後輩達をまた羨ましく思いました。(宮西徳明)

*「同窓会は人を和やかにし、結びつける」ある卒業生の言葉だ。人に故郷があるように、皆それぞれに学び舎があり、同窓会に関わり、そして勇気を育んでいる。

白川静先生も若き頃に会った教え子達との同窓会を楽しみにしている。恩師を囲んで語り合うとき、生徒たちは故郷の懐に抱かれた安心感を得る。白川先生は、そんな先生であった。

3月は、桜と共にそれぞれの学び舎を旅立つ時期だ。何時までも語り合える先生と仲間を得ましたか? 今も語り合っていますか? そして、今年から社会人になられる新校友会員のみなさん、各都道府県や地域で、また、諸外国にあっても、「立命館大学校友会」をどうぞお訪ねください。

さて、今年は、地球温暖化防止のために締結された京都議定書発効の年。世界中のひとり一人がエコロジー・ライフを真剣に考えるべき時が来た。京都を本拠とする立命館で学んだ我々も、さあ、行動を開始しよう。(Kaz)

*「そんなんちゃうの」と、上体をのりだすように笑顔で話す古市氏の瞳は、とても大きく黒く、そして深く輝いていた。話の内容の重さとは正反対の軽妙とも言える話し振りに、思わず引き込まれた。何一つ自慢されないが、パニック時にも冷静さを失わない的確な判断力と、決断した事を実行し継続できる卓越した行動力・持続力を持っておられるのだろう。悟りを得た修行僧のようでもあるが、萌え出る若さ溢れる勢いも感じる。『還暦ルーキー』とはうまく言ったものだと思う。取材後、近所を案内して頂き、心から地元を愛しておられるのが良く分かった。(G)

いつめい No.220 / 年4回発行

発行所 / 立命館大学校友会
 発行人 / 山中 諄
 編集人 / 尾崎 敬則
 〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
 Tel. 075(465)8120・8124
 Fax. 075(465)8125
 URL : <http://www.ritsumei.ac.jp/mng/al/>
 E-mail : alumni@st.ritsumei.ac.jp

校友会・グループ インフォメーション

(職)は職場電話番号

校友会・グループ	日時	会場	問い合わせ先
立命館大学法学部井戸田会総会	4/ 9(土)19:00	ホテルグランヴィア京都	市田幸雄 075(313)4735
兵庫県校友会西宮支部設立総会	4/10(土)11:30	西宮市民会館	茶谷良明 (職)06(635)10733
富嶽会総会	5/22(日)15:00	沼津市産業プラザ	大石育三 (職)0545(63)8984
奈良県校友会総会	5/28(土)14:00	奈良ホテル	阪田光彦 (職)0744(25)8204
大阪地区新人歓迎会	6/ 4(土)12:00	中之島倶楽部	大阪オフィス 06(620)3610
法学部同窓会	6/11(土)14:00	スイスホテル南海大阪	法学部事務局 075(465)8175
関東新校友会歓迎会	6/18(土)13:00	有明パナソニックセンター	東京オフィス 03(5204)8611
新潟県校友会総会	6/25(土)15:00	万代シルバーホテル	小野守通 (職)025(385)4222
京都春風会新人歓迎会	6/25(土)15:00	衣笠キャンパス中川会館	校友会事務局 075(465)8120
三重県南勢会総会	6/26(日)13:00	鳥羽シーサイドホテル	中山一幸 (職)0596(28)8165
香川県校友会総会	7/ 2(土)16:00	喜代美山荘「花樹海」	田村晴彦 087(843)7275
大阪校友会年次大会	7/ 8(金)18:30	スイスホテル南海大阪	大阪オフィス 06(620)3610
群馬県校友会総会	7/10(日)14:00	ホテルメトロポリタン高崎	石橋 博 027(372)8422
広島県校友会総会	9/ 3(土)17:00	広島全日空ホテル	市村 章 082(294)8446
All-Rits 立命館校友会	11/5(土)17:00	ホテルグランヴィア京都	校友会事務局 075(465)8120

校友消息 (判明分)

叙勲 2004年秋分

旭日双光章

寺村四郎氏 ('61文)

元彦根市議

足立 誠氏 ('73経済)
 伊藤忠食品(株)常務取締役
 山田訓史氏 ('73経済)
 (株)清水銀行頭取

就任

福井宏充氏 ('65経済)
 アイシン精機(株)専務取締役

勝部一郎氏 ('66理工)
 扶桑電通(株)取締役

福元真典氏 ('72経済)
 (株)南日本新聞社常務取締役

訃報
 土田三次郎氏 ('57法)
 (愛知県校友会会長)
 12月13日ご逝去。72歳。
 浦田直美氏
 (本学名誉教授)
 1月25日ご逝去。79歳。

BOOKS

校友会へご贈答下さいました本の中から紹介させていただきます。

- 高田良介氏 ('63法) 著
『最後の老中と藩士達』
友月書房 * 1800円
- 中田昭栄氏 ('72文) 著
『詩経 新編下 - 悲しみの詩集 -』
郁朋社 * 2000円
- 似内恵子氏 ('77法) 著
『こんな動物のお医者さんにかかりたい!』
かんき出版 * 1300円
- 北原一憲氏 ('80経済) 他著
『中小病院の診断・支援マニュアル』
同友館 * 2400円
- 内川政利氏 ('83法) 著
『されど我が青き迷路に』
新風舎 * 1400円
- 杉谷健一郎氏 ('89経営)
『500年前のラグビーから学ぶ』
文芸社 * 1400円

価格は本体価格です。

2005年度モニター募集

『いつめい』各号の内容に関するアンケートにご協力いただける方を募集します。
 期間は2005年7月号 (No.221) から1年間です。

葉書・ファクシミリ・電子メールのいずれかに、住所・氏名・卒年・学部・職業を明記の上、校友会事務局編集係までご応募ください(事務局連絡先は当ページ左下をご覧ください)
 締切: 5月10日(火) 事務局必着

新人歓迎会のお知らせ

関東新校友会歓迎会

[日時] 6月18日(土) 13:00
 [会場] 有明パナソニックセンター1階ホール
 [アクセス] ゆりかもめ有明駅/りんかい線 国際展示場駅(下車すぐ)
 [会費] 新卒校友 1,000円
 2000年以降卒業校友 3,000円
 1999年以前卒業校友 4,000円
 問合せ先: 立命館東京オフィス
 Tel. 03-5204-8611

大阪地区新人歓迎会

[日時] 6月4日(土) 12:00
 [会場] 大阪市中央公会堂 地下1階「中之島倶楽部」
 [アクセス] 地下鉄御堂筋線・京阪電鉄 淀屋橋駅
 問合せ先: 立命館大阪オフィス
 Tel. 06-6201-3610

京都春風会新人歓迎会

[日時] 6月25日(土) 15:00
 [会場] 衣笠キャンパス 中川会館校友ロビー
 参照URL : <http://www.rsbk.org/>

立命館大学入学式参観のご案内

2005年度入学式が、来る4月5日(火)に行われます。立命館大学の入学式は、式典とともに学生諸君が様々な歓迎イベントを繰り広げることで知られています。校友の皆様にも学生たちの活劇とした姿をご覧いただきたく、ご案内いたします。参観ご希望の方は、下記の要領でお申し込みください。

日時: 4月5日(火) 14:00
 式場: 大阪ドーム (入場無料)
 申込方法: 葉書・ファクシミリ・電子メールのいずれかに、住所・氏名・卒年・学部を明記の上、校友会事務局までお申し込みください(事務局連絡先は当ページ左下をご覧ください)
 締切: 3月23日(水) 事務局必着
 申し込み無き方にはご参観いただけません